

# 南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

令和3年1月8日(金)作成

学校長：穴水 秀人

記述者：教頭 小林 雅人

## 【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさと未来（あす）を創造する児童生徒の育成」  
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ  
小中一貫校八田小中学校の教育は，【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし，義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
  - ふるさとを大切に思う児童生徒
  - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
  - 自律性・豊かな人間性を持ち，たくましく生きていくための健康，体力を持った児童生徒

## 【学校経営の概要】

1. 校訓 『日日新』（ひびあらた）
2. 学校教育目標  
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像  
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝
  - は 励んで学び，確かな知識を持つ生徒 （知育） → 知の力
  - つ 強い精神と身体を持つ生徒 （体育） → 体の力
  - た 助け合い，いたわり合う心を持つ生徒 （徳育） → 心の力
4. 経営の基本方針
  - (1)すべての教育活動を生徒の育成に収斂する。
  - (2)山梨県学校教育指導重点，南アルプス市学校教育大綱及び教育振興プラン，各種法令に則った教育活動を行う。
  - (3)小中一貫校として，開かれた・特色ある・信頼される学校づくりに努める。
  - (4)生徒が安心して，安全に生活できる学校づくりに努める。
  - (5)日常での教師と生徒の信頼関係を基盤として，生徒理解を深め，一人ひとりのよさや可能性が活かされるように努める。
  - (6)教職員としての資質能力向上を図り，信頼される教育活動の実践・展開に努める。
  - (7)家庭・地域等との連携により，望ましい教育環境づくりに努めるとともに，外部機関等との信頼関係の構築にも努める。
5. 経営の柱
  - 【確かな学力の育成】
    - (1)個に応じたきめ細やかな指導
    - (2)社会情勢に対応した教育
    - (3)特別支援教育の充実
  - 【豊かな心の育成】
    - (1)ふるさと教育の推進
    - (2)情操教育の充実
    - (3)一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実
  - 【健やかな体の育成】
    - (1)体力の向上
    - (2)食育・健康教育の推進
  - 【学びを支える環境の整備】
    - (1)教職員の資質・能力向上
    - (2)家庭・地域と連携した学校づくり
    - (3)小中一貫教育の推進
    - (4)危機管理体制の整備・充実

## I 後期学校評価の結果（前期・昨年度後期学校評価との比較を含む）

### 1. 教職員の自己評価 21名実施

※昨年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、自己評価の項目も小学校と同一のものとした。本年度は新型コロナウイルス感染症による影響（臨時休校・新たな生活様式）で、当初計画されていた教育活動を思うように実施できなかった。しかし、コロナ対策を行いながら、工夫して日々の活動を行っている。

#### (1) 後期の結果

##### ① A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目

8項目（前期：6項目）

※次の2項目が、前期に加えて、肯定的評価が100%になった項目である。

「生徒指導13：児童生徒とのコミュニケーションをとることで、児童生徒理解に努めている」

「特色ある開かれた学校19：合唱活動の充実や運動会（体育祭）等の特色ある学校行事が充実するように努めている」

##### ② A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目

「学校経営2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成』の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っている」（85.7%）

「学校経営6：小中一貫校（分離型）として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っている」（76.2%）

「学習指導11：八田小中スタンダード（含む、教科別年間指導計画）を活用している」（85.0%）

「学習指導12：八田小中学習スタンダード（学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール）を意識した授業づくりを進めている」（85.0%）

#### (2) 前期との比較

##### ① A・B評価の合計が大幅に向上した項目

「学校経営7：ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善を行っている」（81.0%→90.5%）

「学習指導12：計画的な家庭学習の手立てをしている」（78.9%→90.0%）

「特色ある開かれた学校17：開かれた学校を意識した、学校開放日等、保護者や地域に対し努力している」（85.7%→95.2%）

「特色ある開かれた学校18：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている」（81.0%→90.5%）

「特色ある開かれた学校19：合唱活動の充実や運動会（体育祭）等の特色ある学校行事が充実するように努めている」（85.7%→100%）

##### ② A・B評価の合計が大幅に減少した項目

「学校経営6：小中一貫校（分離型）として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っている」（90.5%→76.2%）

#### (3) 昨年度後期との比較

##### ① A・B評価の合計が大幅に向上した項目

「学校経営2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成』の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っている」（78.9%→85.7%）

「学習指導12：計画的な家庭学習の手立てをしている」（81.3%→90.0%）

「生徒指導16：外部関係機関を積極的に活用し、児童生徒の健全育成に努めている（特別支援教育も含む）」（88.2%→95.0%）

「特色ある開かれた学校20：小笠原流礼法や立腰教育を意識させ、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めている」（78.9%→95.2%）

##### ② A・B評価の合計が大幅に減少した項目

「学習指導9：児童生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている」（100%→90.0%）

「特色ある開かれた学校18：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている」（100%→90.0%）

#### (4) 自由記述より ※○の中の数字は、項目番号

① 明るくさわやかなあいさつを交わす生徒が増えてきていると感じる。

② 総合において、発達段階的に編成しており、山梨や南アルプスを知る学習を通して、ふるさについて学ぶことができている。「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」のために、これからも主体的に取り組ませたい。

③ コロナに始まり、コロナで終わる気がする。本来の仕事である「授業づくり」に注力したい。

③ 生徒と教職員との距離感のバランスがよく、悩みやトラブルなどを話しやすい雰囲気が醸成されている。

- ③授業内容をやり切ることが大事ではあるが、校内研の内容にかかわる「一人一実践」の相互授業参観があまりできていない。
- ④学校での出来事をできる限りすぐに伝えるように努めている。
- ④学校通信・学年通信・学級通信・その他便りの発行やホームページ・学校メールの配信を行っている。特に、今年度はコロナの影響で保護者が学校に来ることが少なかったので意識的にメール等の配信を行った。
- ⑤定期的に防災訓練を実施して、災害に対する意識が高まるように努めている。
- ⑤防災教育に比べ、防犯教育はあまり行うことができなかった。
- ⑤「進行型災害」と「突発型災害」に対するタイムライン（防災行動計画）を作成し、自然災害に備えたい。それによって、先を見通した早めの行動をとることができる。
- ⑥コロナ禍で、今年は児童生徒の交流が思うように出来なかった。しかし、やろうという意識は高かった。
- ⑥小中一貫校として、情報交換をこまめに行い、お互いの状況を把握することに繋がった。一方、担当同士で情報交換が取り切れていない場面も多々あった。
- ⑦なかなか業務改善が出来なくて、時間外勤務が増えてしまっている。しかし、職員室の雰囲気はとても良い。
- ⑧「まとめ・ふりかえり」をすることで、授業理解が深まっているように思う。その質が高まるとさらに良い。
- ⑨コロナ禍で授業時間が削られ、内容をやり切るのに精一杯の現状がある。
- ⑨授業中に、積極的に発言する生徒の声が聞こえてくる。
- ⑩八田小中スタンダードだが、なかなか活用できていない。
- ⑪コロナ禍であるが、できること（八田メソッドの活用等）をしっかりと続けていきたい。
- ⑪公開研究会の為ではなく、通常の授業をどう充実させるかが大切である。来年度腰を据えて取り組むべきだ。
- ⑫取組表を活用して、計画的な手立てができていていると思う。しかし、テスト期間以外は、手立てまでは出来ていない。
- ⑫2学期末のテスト勉強期間に合わせて、小学校6年生の児童にも取組表（生徒会作成）を配付し、学習強化週間を実施することができたことは、大きな成果である。
- ⑬生徒と教師間が近く、日常の中に話している姿を多く見ることができる。
- ⑭からかい等で嫌な気持ちになる生徒が時々いるが、全体的にはお互いを認め合って生活ができています。
- ⑮学校での出来事をお便りや電話などで、連絡を密にして情報交換ができていていると思う。
- ⑯SC（スクールカウンセラー）を活用しながら、子供たちが生活しやすい学校をつくるように努めている。
- ⑯合唱において、小学校から同じ方に指導いただくと、成長を見ていただけて良い。
- ⑰学校行事の際に、出来る範囲で保護者や地域の方々を呼んで取り組むことができた。コロナ禍の中では努力している。特に、学園祭・合唱コンクールにおいては体制を整えることができた。
- ⑱CS（コミュニティスクール）への移行を見据え、今後の課題である。
- ⑲コロナ下であっても、工夫しながら有意義な学校行事を行うことができ、充実していた。
- ⑳授業前の「黙想からのあいさつ」が定着してきている。立腰も意識させている。
- ⑳授業において、生徒たちはよく頑張っているが、「心と体のバランスのとれた児童生徒の育成」という意識を普段から持っていることが大切である。

#### 【その他】

- 自分の役割を責任をもってやろうとしている。（そうじ、係活動、委員会活動等）
- あいさつを意識して取り組める。
- あいさつ・返事がしっかりできるように、これからも指導を継続していきたい。
- 授業にもよく取り組んでいる。
- 家庭学習など、学習習慣を定着させていきたい。
- コロナ禍の中、多くの行事ができたことに感謝。
- 言葉遣いが良くない生徒が増えてきたように感じる。
- 少ない職員の学校は、一人一人にかかる負担が多くなるが、生徒のために手を抜くわけにはいかない。子供たちがのびのび活動できているのが嬉しい。
- まだまだ課題はあるが、行事での生徒の様子を見ると、1年く2年く3年と着実に成長していると思う。今後も一枚岩となって頑張りたい。
- 行事を終えるごとに大きく成長する生徒の姿がある。八田中は行事への取組を通して、人間形成を行っている。
- 不登校生徒の多くがそれぞれの居場所を見つけることができ、昨年度よりも少なくなっている。今後における本校の課題は、「学力向上」と「特別支援教育」だと考える。
- 今年度は、コロナ対策が中心の学校運営であった。大きな財産ができたような気がする。今後も、色々な障害が到来するかもしれないが、何とかみんなで乗り切りたい。

#### （5）まとめ

前期に比べ、肯定的評価が高くなってきている項目が増えた。また、昨年度同期に比べても、肯定的評価が高くなっていく項目が多くなっている。しかし、新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、思うように教育活動を行えなかったことも事実である。

## 2. 学校生活に関する生徒アンケート 173名実施

※昨年度より小学校とほぼ同様の項目とした。ただし、発達段階が違うので表現が少し異なっている。

### (1) 後期の結果

#### ① A・B (肯定的評価)が高い(90%以上)項目について

18項目(除く睡眠時間)中8項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

- 「あなたは、学校生活が全般的に楽しいと思いますか」(94.8%)
- 「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか」(93.6%)
- 「あなたは、相手の気持ちを考えて、行動していますか」(97.1%)
- 「あなたは、先生や友だちの話をしっかり聴いていますか」(98.8%)
- 「あなたは、学校生活での時間を守っていますか」(97.1%)
- 「あなたは、校則での「きまり」(交通ルールを含む)や約束ごとを守っていますか」(97.1%)
- 「あなたは、給食当番や清掃をしっかりとやっていますか」(97.1%)
- 「あなたは、自分から『あいさつ』が行えていますか」(94.2%)

#### ② A・B(肯定的評価)が低い(80%未満)項目について

18項目中(除く睡眠時間)6項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 「あなたは、授業中発言をしますか(小グループでの話し合いを時も含む)」(67.6%)
- 「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」(61.8%)
- 「あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか」(61.3%)
- 「あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く)」(59.5%)
- 「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」(72.8%)
- 「あなたは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか」(79.8%)

#### ③ 「あなたは、平日(月曜日から金曜日まで)の睡眠時間はどのくらいですか」

- 9時間以上・・・25名(前期24名)(昨年度後期25名)
- 8時間ぐらい・・・53名(前期54名)(昨年度後期50名)
- 6～7時間ぐらい・・・86名(前期87名)(昨年度後期91名)
- 6時間未満・・・9名(前期8名)(昨年度後期20名)

### (2) 前期との比較

#### ① A・B評価の合計がある程度向上した項目

- 「あなたは、授業中発言をしますか」(64.7%→67.6%)
- 「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」(70.5%→72.8%)

#### ② A・B評価の合計がある程度減少した項目

- 「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」(67.1%→61.8%)
- 「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか」(87.3%→81.5%)
- 「あなたは、悩みごとなどを相談できる友だちがいますか」(91.9%→86.1%)
- 「あなたは、体力作りに取り組んでいますか(部活動を含む)」(87.8%→80.3%)
- 「あなたは、規則正しい生活ができていますか」(85.0%→79.8%)

### (3) 昨年度後期との比較

#### ① A・B評価の合計がある程度向上した項目

- 「あなたは、学校生活が全般的に楽しいと思いますか」(86.0%→94.8%)
- 「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか」(86.0%→93.6%)
- 「あなたは、家で読書をしますか」(54.3%→59.5%)
- 「あなたには、悩みごとなどを相談できる友だちがいますか」(82.8%→86.1%)
- 「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」(63.4%→72.8%)
- 「あなたは、体力作りに取り組んでいますか」(74.6%→80.3%)
- 「あなたは、家の人に学校の様子を話していますか」(76.8%→81.5%)

#### ② A・B評価の合計がある程度減少した項目

- 「あなたは、授業中発言をしますか」(70.4%→67.6%)
- 「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」(68.8%→61.8%)
- 「あなたは、宿題以外にも家庭学習に取り組んでいますか」(71.0%→61.3%)
- 「あなたは、規則正しい生活ができていますか」(83.9%→79.8%)

#### (4) まとめ

全体的に、きちんとした生活を送りながら楽しく授業等に取り組んでいる生徒の様子が伺える。昨年度後期との比較は、一概にそうとも言い切れないが、ある程度の傾向をつかむことはできる。前期に比べて後期の方が数値の下がってしまっている項目もあるが、コロナの影響も少なからずあるように思う。

### 3. お子さんに関する保護者アンケート 172名実施

※昨年度より項目を小学校と同一のものとした。兄弟姉妹がいる場合も、生徒数分の回答をお願いした。また、前期の反省を受け、「おさんは、あいさつをよくしますか。」の項目を追加した。

#### (1) 後期の結果

##### ① A・B (肯定的評価) が高い (90%以上) 項目について

15項目 (除く携帯電話) 中7項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

「学校は、お子さんにとって、楽しいところだと思いますか」 (93.0%)

「おさんは、あいさつをよくしますか」 (90.1%)

「お子さんの仲の良い友達を知っていますか」 (98.2%)

「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか」 (90.1%)

「ご家庭では、お子さんのしつけに力を入れていますか」 (91.3%)

「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思いますか」 (91.1%)

「学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか」 (90.6%)

##### ② A・B (肯定的評価) が低い (80%未満) 項目について

15項目 (除く携帯電話) 中3項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

「おさんは、授業の内容が分かっていると思いますか」 (72.5%)

「おさんは、宿題 (課題) を忘れずにしていますか」 (73.1%)

「おさんは、宿題の他にも家庭学習 (塾や家庭教師は除く) をしていますか」 (55.2%)

##### ③ 携帯電話の項目

「お子さんに携帯電話を持たせていますか」

はい…131人

いいえ…41人

(1年36人 2年42人 3年53人)

(1年15人 2年16人 3年10人)

「携帯電話を持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか」

はい…116人

いいえ…18人

(1年34人 2年38人 3年44人)

(1年4人 2年5人 3年9人)

#### (2) 前期との比較

##### ① A・B評価の合計がある程度向上した項目

「おさんは、宿題の他にも家庭学習 (塾や家庭教師は、除く) をしていますか」

(51.8%→55.2%)

「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか」

(87.1%→90.1%)

##### ② A・B評価の合計がある程度減少した項目

「おさんは、授業の内容が分かっていると思いますか」 (77.8%→72.5%)

「おさんは、宿題 (課題) を忘れずにしていますか」 (77.8%→73.1%)

#### (3) 昨年度後期との比較

##### ① A・B評価の合計がある程度向上した項目

「学校は、お子さんにとって、楽しいところだと思いますか」 (89.2%→93.0%)

「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか」 (78.6%→84.8%)

「学校は、いじめの未然防止や子どもたちの間違っただ行動などに対して、指導していると思いますか」

(80.6%→86.9%)

##### ② A・B評価の合計がある程度減少した項目

「学校は、小中一貫校 (分離型) 教育を意識して教育活動に取り組んでいると思いますか」

(89.2%→84.5%)

「学校 (学年・学級) だよりから教育活動の様子を知ることができますか」 (94.1%→88.8%)

「授業参観 (フリー参観) や学校行事などは、子どもの様子をよく知る機会となっていますか」

(92.5%→88.7%)

#### (4) 評価項目に関わって(抜粋) ※学校全体を改善していくための視点で。

- ・小中一貫校については、もう少し子供たち同士がふれ合える場があると良いと思う。
- ・小中一貫校のメリットがあまりないと思う。小さい地域の割に、不登校の子が多い印象がある。顔ぶれが変わらないのは、良い所もたくさんあるが、刺激が少ないためか、向上心の高い子が少ないように思う。学力向上、部活動に力を入れてほしい。アフターコロナ、少子化など変化していく時代に合わせて、新しい八田小中学校の特色が必要だと感じる。また、それは、先生が変わっても受け継がれていくものでなければならないと思う。
- ・防寒着の着用について、明確なルールがなくわかりづらい。なぜ、ウインドブレーカーでないとダメなのか。窓も開いているのにひざ掛けがダメなのはどうしてなのか。臨機応変にしていきたい。
- ・コロナ禍で学校での感染症対策はとても大変だと思うが、子どもが安心して通えていることに感謝している。
- ・今年はコロナで色々と先生方も大変だったと思うが、学園祭も合唱も活気がなくてやらされている感があったように思う。子どもにも話をしたが、もう少しパワフルで活気があってほしい。中学生らしく一生懸命に、学校生活を頑張ってもらいたい。
- ・㊸については、学校行事が少ないので不明。
- ・コロナ時代なので、学校行事に親が参加するのが難しいが、合唱や学園祭が見られてうれしかった。
- ・コロナ禍で教育現場にも相当な負担が増加しているが、子の教育の為、引き続きのご指導をお願いしたい。

#### (5) まとめ

昨年度課題であったもの(楽しい学校・相談できる先生・いじめ対応等)が、改善されてきている。一方、コロナによる影響か、学校での生徒の様子が保護者に伝わりにくくなっている。

## II 総括(成果と課題)。

2学期は、新型コロナウイルス感染症対応をしっかりと取りながら、できる範囲で行事を行ったり、「新しい生活様式」による学校生活を送ったりしてきた。そのような状況ではあるが、「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、特に以下の事柄について今後改善をしていく必要がある。

### (1) 学習保障と学力向上のための取組

#### 【成果】

- 南アルプス市教育委員会「学びの質を高める授業づくり推進事業」の指定校(2年目)として、校内研究会(既に16回実施)で研究を深めることができた。
- 生徒自ら(生徒会の取組)が、本年度も授業規律について考えることができた。
- 小学校6年生と2学期末テストの前に家庭学習強化週間を設定し、取り組むことができた。
- アドジャンタイム(毎週水曜日に実施:「かかわりの力」の構成要素「自尊感情」「ソーシャルスキル」を育むための手立て)を継続し、ソーシャルスキルを身につけさせるとともに、学級の人間関係づくりを行ってきた。
- 長期休業の短縮や行事の精選等により、生徒の学習保障ができる見通しが立っている。

#### 【課題】

- 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を如何に実現するか。
- 授業の「振り返り」から、家庭学習に如何につなげていくか。

#### 【対策】

- GIGAスクール構想(高速通信ネットワーク・一人一台端末)に基づき、今年度中にはその環境が整う。教職員のICT活用指導力の向上のため、研修をしっかりと行っていく。
- 業務改善(行事等の見直しや働き方改革等)を行うことで、生徒と向き合う時間や教材研究等の時間をしっかりと確保できるようにする。
- 生徒会による「学習の心構え」を生徒自身で徹底していく。(生徒総会でも確認)
- 小グループによる協働学習を推進し、「主体的・対話的で深い学び」ができるような授業を創造する。1月には「公開研究会」が計画されているが、普段からお互いに授業を見合うことで、授業力の向上を図っていく。
- 昨年度から実践しているOPPA(One Page Portfolio Assessment)を継続し、授業の「振り返り」を家庭学習につなげる。
- 特別支援教育の視点も取り入れ、授業づくりを行う。(ハンカチ理論・ユニバーサルデザイン授業)

### (2) いじめ・不登校に対する取組

#### 【成果】

- 「学校いじめ防止基本方針」を昨年度末に見直し、4月の職員会議において、その内容を全職員で確認をした。八田中ホームページにも掲載中である。
- 2学期末に行った「いじめアンケート」等により、いじめ(からかいや嫌がらせ)を5件認知した。それぞれ対応済みではあるが、指導・支援を継続中である。重大事態はなかった。
- 第2回生徒総会において、生徒たちが「いじめ0宣言」の総括を行い、改めていじめを「絶対にしません」「絶対に許しません」「絶対にさせません」という確認を全校生徒ですることができた。
- 不登校生徒(30日以上欠席)は、6名である。それ以外に、病欠による30日以上欠席生徒が2名いる。昨年度よりは少なく、1年生については現在のところ一人もいない。

**【課題】**

- いじめの取組について保護者に理解されていないところがまだある。
- 不登校や不登校傾向にある生徒が昨年度よりも少なくなったとはいえ、皆無ではない。

**【対策】**

- 「いじめは、どの子供にも、どの学校にも起こりうる。いじめの認知を積極的に行い、いじめ解消率を100%にすることが重要である。」「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。」という考え方を保護者や地域の方々にも理解していただく。
- 特色ある学校行事や分かる授業を行い、魅力ある学校づくりを推進していく。
- スリンプログラム（アドジャン等）を3学期も継続し、生徒の「自尊感情」や「ソーシャルスキル」を育む。そのことが、「人と関わる力」を高め、いじめや不登校の防止にもつながる。
- 「学校いじめ防止基本方針」（ホームページにも掲載）に則った取組を確実に行うとともに、年度末には「いじめ対策委員会」において方針の見直しを行う。
- 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
- スクールカウンセラーによる相談体制を継続するとともに、3学期にも2者（生徒と学級担任）懇談を実施し、生徒とのコミュニケーションを図るとともに、生徒一人ひとりの悩みや心配事にも対応できるようにする。
- 不登校傾向のある生徒に対する居場所づくりを行い、再登校や社会的自立を促していく。
- 南アルプス市子育て支援課・南アルプス署生活安全課・あるぷす教室Wing等の関係機関と連携を取り合いながら、諸課題に対応していく。

**(3) 小中一貫校としての取組****【成果】**

- 昨年度「南アルプス市立小中一貫校八田小中学校」として新たなスタートを切り、義務教育9年間を見通した教育課程を実施している。
- 年間を通して、英語（小5・6）・体育（小5・6）・音楽（小6）の「乗り入れ授業」を行った。
- 2校会（小中管理職による会議）を毎月開き、情報交換等を行った。
- 小中一貫校としての取組が「中一ギャップ」の解消につながっている。

**【課題】**

- コロナ禍の中、小中の交流や取組が計画通りできない。
- 小中一貫校としての特色や取組が目に見える形になっていない。

**【対策】**

- 今後も「南アルプス市立小中一貫校八田小中学校グランドデザイン」（ホームページ掲載中）に則り、「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」を目指す。
- 小中の交流ができなくても、担当同士の間で連携を密にし、同一歩調で取り組めるようにしていく。
- 八田小中学校としての特色をしっかりと打ち出す。その一つとして、中学生がリーダーシップを発揮し、八田小中学校が「さわやかなあいさつを交わし合う学校」になるように取り組む。

**(4) 来年度の課題：「社会に開かれた教育課程」の実現とコミュニティスクールへの移行（R4～）****【課題】**

- 地域とのつながりが希薄になりがちな中学校において、「社会に開かれた教育課程」を如何に実現するか。
- 教育目標を保護者や地域住民と如何に共有し、その目標の達成のため、どのように連携・協働していくか。

**【対策】**

- 学校関係者評価委員会（評議員会）において、来年度から中学校は新学習指導要領が完全実施となり、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて教育活動を行っていくことを周知する。また、令和4年度から八田小中学校において学校運営協議会を立ち上げ、CS（コミュニティスクール）に移行することに対して理解を得る。
- ホームページに、学校評価の「自己評価」及び「学校関係者評価」を掲載し、地域住民の理解を得る。
- 現在行われている教育活動を見直し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにする。
- 3学期には、新学習指導要領の完全実施に向けて、生徒や地域の実態を踏まえ、来年度の教育課程を編成する。また、八田地区や南アルプス市、山梨県にある人的・物的資源を掘り起こし、教育課程に位置付ける。
- 新入生保護者説明会・入学式・PTA総会・学年部会・学校（学年・学級）だより等を通して、教育目標やその実現に向けた教育課程の編成方針等を説明し、保護者の理解を得る。